

○渡辺議長 次に、塚田議員。

〔塚田議員質問席へ〕

○塚田議員 皆さん、こんにちは。市民の声なしで米子の未来発展なし、会派新政自民、塚田佳充、仏の塚田でございます。

今定例会におきまして、大要2点質問してまいりますので、市長並びに当局の皆様、建設的な前向きな答弁をよろしくお願いいたします。

まずは1点目、歩いて楽しい米子市・交通基盤の充実についてを伺っていきたいと思います。

市長や当局の皆様も我々議員も、今起こってることに注力し、政策を練っていくことも大切です。それはとても大切なことですが、20年、40年先の米子市の未来を見据え、政策を練っていくことも大切だと私は思っています。そういう観点から質問してまいります。

駅前の実証実験の目的について伺いたいと思います。

○渡辺議長 西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 令和5年7月に開通いたしましたがいなロードの整備を契機といたしまして、本市のシンボリックな通りでございます駅前通りを中心といたしまして、将来、少子高齢化、人口減少が進む社会におきまして、過度に自動車に依存する社会から公共交通を利用して移動することが可能な社会へ変容することを前提に、町なかを車中心から公共交通と歩行者中心の空間へ転換し、歩行者に優しい歩きやすいまちをつくるとともに、周辺エリアの活性化につなげていくことなどを目的としております。

さらに、今回の実証実験につきましては、これまでの実証実験の

結果を踏まえ、自動車交通への影響を確認するということが大きなポイントの一つでもございます。以上です。

○渡辺議長 塚田議員。

○塚田議員 ただいま今回の実証実験の目的をお聞きしましたが、ちまたでは駅前通りを3車線化にするという話が飛び交っています。直球でお聞きします。実証実験が駅前通りの3車線化のためのものではないか、改めて伺いたいと思います。

○渡辺議長 西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 今回の実証実験につきましては、将来の駅前通りの3車線化に向けて、現時点での課題を明らかにするために実施したものでございます。引き続き、歩行者にとって優しく歩きやすいまちづくりを進め、一つ一つ駅周辺の活性化を実現してまいりたいと存じます。以上です。

○渡辺議長 塚田議員。

○塚田議員 分かりました。将来の駅前通りと言ってくださって安心しました。ここが重要なポイントだと私は思っています。今すぐではない将来だと、そこを皆さんが理解した上で質問を続けたいと思います。

駅前の実証実験の結果について伺いたいと思います。

○渡辺議長 西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 交通状況について、まず御報告いたします。広域的な交通の流れを検証いたしました結果、広域交通への大きな影響は認められなかったほか、実証実験の区間の周辺交差点で実施いたしました交通量調査でも変化は5%程度ということでございまして、周辺の交通環境への大きな影響も認められなかったという

ことでございます。

次に、歩行者数についてでございます。イベント時には日常時の約２倍から３倍と多くの方々に訪れていただいたものの、平日については前年度同月と比較して同程度ということでもございました。さらに、来訪者・市民アンケートでございますが、実証実験に対する評価は低い評価の割合が過半数であり、高い評価の３割を上回っているものの、歩く経験があった場合に高い評価、それから歩く経験がなかった場合、例えば車で実証試験の箇所を、横を車で通過しただけの方というような方には低い評価の傾向がありまして、駅前通りに対する関わり方で評価が大きく分かれたというふうに認識しております。

次に、出店者アンケートでございますが、これも同様に低い評価が多い結果であったものの、今後の出店に関する一定の出店意欲というのが確認できたところであります。

さらに、沿道事業者へのアンケートでございますが、こちら売上げへの影響は７割以上が特に変化はなかったと思うとの回答をいただいております。さらに、５％程度の方々については、上がったように思うという回答もございました。以上です。

○渡辺議長 塚田議員。

○塚田議員 様々な意見等々いただきまして、ありがとうございます。

やはり日常の土日や平日の来訪者や交通量は少ないということが分かったということで、イベント時の来訪者や交通量は多くなるのも分かりましたし、周辺の交通環境への大きな影響も認められなかったというのも分かりました。

その結果を踏まえまして、米子駅前の実証実験の結果における鳥取県の反応について伺いたいと思います。

○渡辺議長 西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 鳥取県からは、実証実験の結果を踏まえて、米子駅周辺エリアを対象とした歩いて楽しいまちづくりの在り方でございますとか歩行空間の拡大、それから課題解決等について、米子市と一緒に研究していくというふうに伺っておるところでございます。以上です。

○渡辺議長 塚田議員。

○塚田議員 そうでしょう。県道であっても、米子市はどうしたいのかというところですね。

では、県の意見を聞いた上で、駅前の実証実験の調査結果の用途について伺いたいと思います。

○渡辺議長 西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 今回の実証実験により、多くのデータやその客観的分析結果が得られたほか、市民の皆様や沿道事業者の貴重な御意見をいただいたというふうに考えております。この調査結果を活用し、駅前通りの歩行空間と車道空間の将来の在り方でありましてとか、他の都市の先進事例におけるプロセス等も含めた拡幅した歩行空間での利活用等について研究してまいりたいと存じます。

さらには、本市が進める取組に対する趣旨への理解促進や賛同を得るため、調査結果を基に研究した内容を市民の皆様や沿道事業者の皆様と共有を図ってまいりたいと存じます。以上です。

○渡辺議長 塚田議員。

○塚田議員 駅前の実証実験の結果を踏まえて、未来の展望につい

て伺いたいと思います。

○渡辺議長 伊木市長。

○伊木市長 駅前の3車線化に向けての実証実験につきましての成果につきましては、先ほど来、部長からの答弁があったとおりでございます。そういう意味で、非常にいいです。いいというのは、未来に向けて有意義な結果が得られたのではないかと認識をしております。それはどういうことかといいますと、まず自動車交通についての影響というものは比較的軽微であったという点、それからイベント開催時には結構なお客さんがいらっしゃるということですが、逆に関心が高ければ変わらなかったということ。こうしたことは非常に未来に向けて有意義な成果が得られた、私はそのように思っております。

一方で、やはり、イベントをしなかったりだとか、あの拡張した歩道を有効に使っていいこうという何か具体的なアイデアとか手段とか、そういうものがもしなければ必ずしも有効でない政策であるということもよく分かってきました。それも含めて、非常に有意義な結果だったと思っておりますが、一つ例えて言いますと、このたび9月から警察のほうで行う交通行政のほうでは、生活道において特に定めがなければ全て30キロに制限時速を下げるという措置が取られたわけですが、これに対する世の中の反応というものが非常に興味深いと思っております。やはり少数ではありますが、歩行者の立場からは非常に大歓迎なんですね。これはやはり歩行者の身の安全というものが守られるという意味において非常に歓迎されている。ただ、恐らくドライバーの方にとっては、この道を30キロで走るなんてあり得ないとか、いろいろ否定的な意見も結構

飛び交っておりまして、ただ、やはり日本はまだまだ遅れてる部分というのは、結局道路というものをもう少し歩行者に優しい道路づくりを進めながら、そして特に繁華街においてはそれをにぎわいつなげるという政策というものが特に地方都市においては乏しいというふうに思っております。したがって、このたびの警察の措置は一定のインパクトを与えたという点については、私はそれも一つ有意義だったと思いますけども、一方で、郊外の生活道について、もっと最初から造るときにこれからは歩道もしっかりと造らなければいけないだろうということは、大きな示唆のある政策だったというふうに思っています。

そういう意味で、いろんな意味で、将来の展望というものは、これから歩行者をいかに道路行政、交通行政の中で大切にしていくのか、もっと言えば、自転車という手段もまだまだ宙ぶらりんになっているような、そういう状況も見てとれますので、今後の交通行政、道路行政の中で、車、それから自転車、それから歩行者、こうしたそれぞれの主体がそれぞれ共存できるような道路整備、交通行政というものを目指していくに当たって、一定の成果の得られた実証実験だったと、そのように思っております。

○渡辺議長 塚田議員。

○塚田議員 市長、ありがとうございます。私も、未来に向かってすごい有意義な結果だったと捉えています。それと、まずは市民への理解促進を図ると部長の答弁もございました。そこから市長や担当課の皆さんの未来の展望、とてもよく分かりました。

賛否いろいろあると思うんですけど、私、個人的にですよ、個人的にはとても大賛成でございます。あくまで個人的ですが、今まで

幾度となく市長は説明をしてくださいました。今説明していただいたように、分かりやすく言いますと、皆さんに25年先の話をするとよく分かるんじゃないかなと思うんですが、例えば私が25年先だと76歳です。市長は77、8ぐらいですか。多分それぐらいだと思うんですけど、この議場の中にはまだ在籍されてる方もおられるかもしれませんし、引退されている方もおられるかもしれません。運転免許はどうでしょうか。私は返納してると思います。というのは、多分、家族から反対されて返納してるような感じはありますね。今現在でも、60歳代の方がアクセルとブレーキを踏み間違えて事故をするという報道を見ますと、私の両親のことが頭をよぎります。独り相撲、よくないですけど、物損事故はまだしも、やっぱり人身事故だけは心配になりますね。なので、今でも両親と会うと免許の返納の話をしたりしますが、車が進化するかもしれません、25年先ですね。そこら辺も分かりませんし、福祉の話になりますが、認知症も増えています。しかも、若年性の認知症が増えています。そういう観点からも、運転免許返納する方は今よりも増えると私は思っています。そういうときになってから動いては駄目なんですよ。遅いんです、やはり。市長はそういうことが言いたいのだと私は理解しています。そういった人たちが困らない米子市をつくるために、米子駅前通り3車線化というテーマを、大々テーマを掲げて、本当に先が見えない暗闇に飛び込むようなすごい決意をされたのだと私は思っています。間違っていたらすみません。

しかも、市長は、私が想像しているよりスピード感を上げて取り組もうとしてるんじゃないかと思っています。私は25年先のことを考えて話ししていますが、それは公共交通基盤の充実を図ってい

るところだと私は思っています。自動運転を成功させ、バス路線なども充実させようとしておられます。私が25年先、先ほども言いましたが、話をしてますけど、市長は10年先ぐらいを見てるんじゃないかなと思っています。

未来の話をしたら本当に尽きませんが、この辺にいたしまして、調査結果の用途の答弁で、歩行空間と道路空間の将来の在り方や利活用等について研究してまいりたいとありました。歩道をバリアフリー化にして歩行空間を広げて、歩行者や障がい者にとっても優しい空間ですね、優しい米子市を目指してもらいたいと思います。

私が今回理解した内容より、もっと広く深い実証実験だったのかもしれない。未来の米子市にとって実りある実証実験だったとなるよう、今後も注力してまいりたいと思います。

話は駅前から南口に替わりまして、米子駅南口から米子アリーナへの歩行者の誘導方法について伺いたいと思います。

○渡辺議長 山中都市整備部長。

○山中都市整備部長 米子アリーナへの歩行者の動線につきましては、米子駅南口から昨年度完成しましためぐみ通りを経由いたしまして、市道昭和町大谷町1号線、いわゆる日本交通米子営業所前の通りと市道昭和町東福原線、マクドナルド181米子南店前の通りを通るルートをメインルートとして整備を進めているところでございます。

具体的な整備内容といたしましては、現在の道路幅員の中で歩行空間を可能な限り確保するとともに、側溝の設置や改修、歩行空間の美装化、路面標示や標識の設置などを行いまして、歩行者を安全に、かつ迷わず通行できる歩行環境の整備を進めているところでござ

ざいます。以上です。

○渡辺議長 塚田議員。

○塚田議員 すみません。ちょっと見えにくいかもしれません。

○渡辺議長 小さい。

○塚田議員 小さいですか。すみません。ちょっと見えにくいかもしれませんが、吉岡議員にちょっと借りればよかったですけど、ちょっとペンしかないんですけれど、すみません。

分かりにくいかな。担当課のほうから、南口から……。

○渡辺議長 ビニール取ったほうがいいみたい。

○塚田議員 取ったほうがいいですか。すみません。

南口の駅からアリーナまでの今後のルート、歩いて楽しいルートというのをどこですかというところをお聞きして、示していただきました。めぐみ通りは完成、整備されましたし、目久美公園もリニューアルされました。昭和町大谷町1号線は整備が少しずつ進んでいると今答弁がございました、側溝などをきれいにしているということで。昭和町東福原線は、大谷町1号線が終わってからになるとお聞きしております。

そこで、現地をちょっと見に行かせていただいたんですが、歩行者専用道路という名目でしっかり工事をしたほうがいいように少し私は思いました。というのも、側溝を整備したというのをお聞きしたんですけど、まだ入り口のところぐらいしかできてなかったように思います。

それと、今現在ですと、この先ちょっと行きますと県道がございます。通り道になるかもしれませんが、県道米子環状線が歩道がきちんと整備されていますので、そこを通ったほうが安全のよう

に思いました。例えば米子アリーナに行く際、引率の先生等々は事前にルートを確認します。確実に県道を通るほうが安全じゃないかと先生も多分判断されるんじゃないかと、今のままですとね、なると思いますので、本当に先ほど市長も答弁していただいたように優しい、歩く人たちに対して優しい米子市を目指すのであれば、本当に歩行者専用道路というような感じになるような歩道を造っていただけたらと思います。答弁にもあったように、迷わず通行できる歩行環境の整備をしっかりと進めていくというのがありましたので、しっかりと進めていっていただきたいと思います。

○渡辺議長 塚田議員、米子駅南は終わりですか。

○塚田議員 はい。

○渡辺議長 じゃあお座りください。

暫時休憩いたします。

午前 11時54分 休憩

午後 1時00分 再開

○渡辺議長 休憩前に引き続き会議を開き、市政一般に対する質問を続行いたします。

塚田議員。

○塚田議員 午後からもよろしく願いいたします。

駅の南北のにぎわいについて、ちょっとお聞きしたいと思います。駅の南北のにぎわい仕掛けについて伺いたいと思います。

○渡辺議長 西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 まず、午前中最後の議論の中にございましためぐみ通りでありますとか目久美公園の整備、これ完了したとこでございしますが、先ほど図面でもお示しいただきました米子アリーナ

への動線、こういったものが新たな人流が生まれるものではないかなというふうにはまずは見込んでおります。その整備された基盤を生かしてにぎわいにつなげていくために、めぐみ通りを歩行者利便増進道路、いわゆるほこみちのほうに指定を行ったところでございます。また、駅南広場周辺の準工業地域の建蔽率でありますとか容積率の緩和を行いまして、民間投資の誘発を図っているところでございます。

続いて、駅の北側について申し上げますと、だんだん広場へのS・Lの移転によりまして鉄道のまち米子を感じていただくとともに、米子駅周辺のさらなる魅力向上を図ってまいりたいというふうに考えております。既存の歩道空間を活用したにぎわい創出の仕掛けづくりといたしまして、沿道事業者の方々と協力しながら、イルミネーションについても実施する予定としておるところでございます。さらに、中海の憩いのテラス、これも先頃完成したところでございますが、三の丸広場も間もなく完成する予定であり、各エリアの拠点を公共交通などでつなぎ、回遊性向上を図ることとしておるところでございます。

あと、駅南北の一体的な発展という観点では、そのほかにぎわい創出も含めてでございますが、民間事業者の皆様と意見交換を重ねておるところでございます。いただいた意見やアイデアを生かしながら、関係機関が連携したにぎわい創出を図るとともに、新たな民間投資にもつなげていきたいというふうに考えているところでございます。以上です。

○渡辺議長 塚田議員。

○塚田議員 様々な取組や仕掛けづくりを行っていることがよく

分かりました。理解できました。引き続きアイデアを出し合って取り組んでいただきたいと思います。

にぎわいといえばイベント、イベントといえば祭り、祭りといえば米子がいな祭というふうに流れてくるんじゃないかなと思います。今年も皆様の御協力のおかげで開催ができて、約8,000発の花火で締めくくることができました。でも、やっぱり暑かったですね。

そこで、猛暑の中で開催された今年の米子がいな祭における熱中症対策の実施状況について伺いたいと思いますが、だんだん広場や駅前通りなどの野外の会場において、どのような熱中症対策を行ったのか伺いたいと思います。

○渡辺議長 石田経済部長。

○石田経済部長 屋外会場におけます熱中症対策といたしまして、陸上自衛隊米子駐屯地や上下水道局の皆様の御協力をいただきまして、米子駅前通りに給水車による給水ポイントを設置してございました。当日は多くの方々に御利用いただきまして、その必要性を改めて認識したところでございます。

また、駅前だんだん広場をはじめとします各屋外会場にはミストファンなどの冷却設備を配置し、駅前通りや花火会場には救護テントや緊急処置所を設けてございました。あわせて、スタッフや鳥取県特別救護隊の皆様による会場内の巡回を行いまして、来場者の安全確保に努めたところでございます。以上です。

○渡辺議長 塚田議員。

○塚田議員 猛暑の中、私も駅前通りから屋台ブースまでと文化ホール前とだんだん広場の3か所を回りましたが、文化ホールは1階

の待合に入ったらエアコンが効いていたため、休めるところがありました。駅前通りとだんだん広場は、演者も観客も私も暑くてちょっと苦しくなったというところがありまして、歩いていると扇風機やミストファンなどがあつたらいいのになという声をよく聞きました。答弁にもありましたが、ミストファンなど設置したとありましたが、各会場を見て回りましたが、熱中症対策が足りてないと感じました。

皆生トライアスロンでは、ミストシャワー等が充実しています。そうした事例も参考に、パレードの中間地点やだんだん広場のダンスを終えてはける先などにミストシャワーを設置するなど、炎天下でも涼める環境を整備すべきだと考えますけど、見解を伺いたいと思います。

○渡辺議長 石田経済部長。

○石田経済部長 議員がおっしゃいますように、夏場の大規模な屋外イベントの開催に当たりましては、熱中症対策が重要と認識してございます。大型扇風機やミストシャワーなどの拡充につきましては、設置スペースや電源、水源の確保といった課題もございます。多くの来場者の皆様に祭りを楽しんでいただくための取組といたしまして、引き続き実行委員会などの関係者と検討していきたいというふうに考えてございます。以上です。

○渡辺議長 塚田議員。

○塚田議員 来年に向けて、よろしくお願いいたします。

がいな祭でのトイレ環境についてですが、駅前通りを歩いているときにトイレを探している御家族とお会いしまして、コンビニが近くにあったので走って入って行きました。そういえばトイレが分か

らないなというように思って、ちょっと歩いて探してみました。が、コンビニか駅か文化ホール、あと駅前イオンですね、と近隣公園ぐらいしかちょっと見当たりませんでした。

トイレ環境の整備として、花火大会のときは会場に仮設トイレが設置されていたと思います。多くの人出があった土曜日の駅前通り周辺における仮設トイレの設置状況について伺いたいと思います。

○**渡辺議長** 石田経済部長。

○**石田経済部長** がいな祭を開催しておりました土曜日の駅前通り周辺には、仮設トイレの設置はしてございませんでした。現状といたしましては、周辺の公衆トイレや御協力をいただいております米子駅前イオンなどの民間施設のトイレを皆様には利用いただいている状況であるというふうに考えてございます。以上です。

○**渡辺議長** 塚田議員。

○**塚田議員** 民間施設に協力してもらえらるなら、参加者の皆さんが分かるようにしなければ意味がないなと思います。

そこで、周辺の店舗等にトイレの利用の協力を得る場合、事前にトイレの位置情報をまとめたスマートフォン等で閲覧ができるマップを作成、周知してはどうかと思いますが、お伺いしたいと思います。

○**渡辺議長** 石田経済部長。

○**石田経済部長** 議員から御提案をいただきましたトイレ位置のマップ作成や周知につきましては、御協力いただける民間施設などの把握に努めまして、がいな祭の公式ホームページなどで周知できるよう、実行委員会などの関係者と協議を進めていきたいと考えてございます。以上です。

○渡辺議長 塚田議員。

○塚田議員 よろしくお願ひいたします。猛暑対策として、冷水・給水スポットがあると、小さなお子さんが持参している水筒に追加で入れることができますし、ペットボトルに冷たい水を入れることができますと思います。先ほど答弁でもありましたように、自衛隊さんのほうでも給水ポイントを設置していただいたり、上下水道局の協力等々もありましたというのを伺いましたんですが、もう少し給水ポイントですか、というのはあってもいいんじゃないかなと思います。陸上自衛隊や上下水道局による給水スポットの確認は私もしました。設置場所が特定のエリアに限られていたので、設置エリアの拡充及び先ほど提案したトイレの位置とかをマップと連動させた給水スポットの位置も周知してしかるべきじゃないかなと思いますが、伺いたいと思います。

○渡辺議長 石田経済部長。

○石田経済部長 給水スポットにつきましては、先ほど御答弁させていただきましてとおり、駅前通りの中間地点やステージ前の2か所に設置をしてございました。あわせまして、民間企業の御協力によりまして、スポーツドリンクの提供も行っていたところでございます。

今後の給水スポットの設置場所や位置情報の周知につきましては、円滑な利用につながりますよう、今回の開催結果を踏まえまして関係者と必要な協議を行いたいと考えてございます。

熱中症対策をはじめとします会場環境の向上に引き続き努めまして、誰もが安心して参加していただける祭りの運営を実行委員会などの関係者とともに進めていきたいというふうに考えてござい

ます。以上です。

○渡辺議長 塚田議員。

○塚田議員 ぜひとも来年に向けて、マップの作成、それから周知、それと携帯でそれが閲覧できるというような形を取って、皆さんが困らないようにしていただけたらと思います。

交通基盤の充実についてに移りたいと思います。何度か自動運転バスについては伺ってきましたが、最新の自動運転バス運行事業の現状について伺いたいと思います。

○渡辺議長 西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 今年度も国土交通省の自動運転社会実装推進事業のほうに申請をいたしまして、7月に交付決定を受けているところでございます。前回の実証運行で把握いたしました技術的課題への対応でございますとか、それから車両、システムの関係の調整など、事業の委託を想定しておりますBOLDLY社と今年度下期の実証運行開始に向け、協議を進めているところでございます。調整が整いましたら改めて議会へ報告させていただきたく存じます。以上です。

○渡辺議長 塚田議員。

○塚田議員 分かりました。私はこの事業が鍵だと思っていまして、大げさかもしれませんが、自動運転バス運行事業の成功なくしては様々な政策が進まなくなる可能性があるようにも思えてなりません。今後も、国の動向も踏まえまして注視してまいりたいと思います。

続きまして、みのりんバスの現状について伺いたいと思います。

○渡辺議長 西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 地域の要望を受けまして、昨年10月から実証運行を開始しておりますこの箕蚊屋地区のコミュニティバスにつきましては、ハイエースを用いまして1日8便の運行を行っているところでございます。利用者数につきましては、1日10人程度、1便当たりに単純平均いたしますと1.3人程度ということでございます。

昨年の実証運行でいただいた御意見を踏まえて、今年の4月に一部のバス停をより目的地に近い場所に移設するなど改善は行っているものの、4月が234人、5月が223人、6月が251人、それから7月が212人ということで、利用者数の増加には至っていないというのが現状でございます。以上です。

○渡辺議長 塚田議員。

○塚田議員 みのりんバスの今後の方向性について伺いたいと思います。

○渡辺議長 西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 現時点で具体的なスケジュールでございませうとか方向性について定めているわけではございません。みのりんバスの運行につきましては、先ほども申し上げましたとおり、地域から様々な要望を頂戴しておりまして、こうした声を丁寧に検討するとともに、利用状況も点検いたしながら、引き続き改善に努めてまいりたいというふうに考えております。

また、本格運行を目指してさらに実証を深めていくということにしておりますが、こうした対応を尽くしたとしても現在の御利用状況が続くようであれば、本格運行というよりは別の交通手段でございませうとか、それから実証の終了ということも選択肢から

排除せずに検討を行う必要があるものというふうに考えてございます。以上です。

○渡辺議長 塚田議員。

○塚田議員 地域性ということもあるかもしれませんね。コミュニティバスよりデマンドバスという方向もあるかもしれません。今後も様々な意見を聞きながら可能性を模索して、本格運行になるようよろしくお願いいたします。

次に、どんぐりコロコロの現状について伺いたいと思います。

○渡辺議長 西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 どんぐりコロコロについてでございます。こちらは平成13年の9月から運行を開始しております。1日当たり10便で、マイクロバスで淀江地区を巡回しているものでございます。利用者数につきましては横ばいの傾向を示しておりまして、大体年平均8,000人前後の御利用ということでございます。先ほどと同様、1便当たりの単純平均でございますが、令和7年度で2.8人というような状況でございます。

低廉な運賃設定であるという性質上、コミュニティバスの収支率というのは低い傾向にございまして、例年8%から9%程度で推移しているところでございます。以上です。

○渡辺議長 塚田議員。

○塚田議員 分かりました。私、これ出すの忘れてました。さっきと同じで見えないかもしれません、ちっちゃくて。どんぐりコロコロのバスの乗降がしにくいとお聞きしますが、どんぐりコロコロを低床な車両にしてはどうかと思いますけど、見解を伺いたいと思います。

○渡辺議長 西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 どんぐりコロコロの車両でございますが、走行区域が比較的降雪量が多いところで、勾配がある地域を運行するものというふうに認識しております。積雪への対策といたしまして、乗降口がまず適切な高さがあつて、4輪駆動の設定がある車両が望ましいというふうに判断をいたしまして、現在のマイクロバスを選定したというような経緯がございます。

車両更新の際には、こうした地域の実情でありますとか運行の実態を踏まえまして適切な車両を選択することといたしたいというふうに考えておりますが、現時点で低床という基準も含めて、これらを全て兼ねそろえた仕様の車両というのが現状ないというのが実情でございます。以上です。

○渡辺議長 塚田議員。

○塚田議員 分かりました。どんぐりコロコロもいろんな課題があるなと思います。本当にいろいろ検討していくことがいっぱいだなと思いますが、頭を抱えて悩んで、前に進めていただけたらと思います。

次に、よねぎーバスの現状について伺いたいと思います。

○渡辺議長 西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 よねぎーバスでございます。弓浜地区を1日20便、これは左回り、右回りということで両方向からでございますが、これがそれぞれ10便ずつということで運行しているものでございます。令和6年の10月から実証運行を開始いたしまして、1年半の実証期間を経て、本年4月から本格運行を開始したところでございます。地域の要望を踏まえて、こちらには低床車両を導入

いたしております。また、先ほど申しましたとおり、左右両回りによる運行も行っているところでございます。

利用状況でございます。昨年度の月平均が358人ということでございました。今年度は4月が829人、5月が727人、6月が871人、7月が1,023人ということで、増加の傾向を示しております。7月における1便当たりの利用者数につきましては2人というような、正確には1.97人という形になりますが、そういった状況でございます。以上です。

○渡辺議長 塚田議員。

○塚田議員 まだまだ気は抜けませんが、これは私としては成功していると言えるのではないかなと思っております。ぜひとも引き続き頑張っていただきたいと思います。

よねぎーバスの今後の方向性について伺いたいと思います。

○渡辺議長 西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 よねぎーバスにつきましては、年内をめどにI C O C A等に対応いたしましたキャッシュレス決済端末を導入することで、さらなる利便性の向上を進めてまいりたいというふうに考えております。よねぎーバスの本格運行に合わせまして、バス事業者様の声として、接続する路線バスの利用者に増加傾向が見られるというような声も聞いておりまして、乗り継ぎ環境の向上など、路線バスとの相乗効果をより高めていけるような取組を行っていく必要があるかなと考えております。以上です。

○渡辺議長 塚田議員。

○塚田議員 私の提案したかったことが出てきました。乗り継ぎの環境の向上ですね、路線バスとの相乗効果をより高めていくという

答弁をいただきました。

では、お聞きします。新たな拠点を構築し、バス路線を一つに結ぶことが必要だと私は思っています。交通結節点に待合環境を整備するお考えについて伺いたいと思います。

○渡辺議長 伊木市長。

○伊木市長 待合環境の改善と整備につきましては大変重要な課題であると認識をしております、本市の地域公共交通の計画におきましても、推進施策の柱の一つに掲げているものでございます。特に交通結節点となり得る鉄道の駅やバスの停留所につきましては、上屋、これは屋根や壁のあるものやベンチの整備を推進することとしております。近年、夏場の高温化が進んでおりまして、バス停で屋根のないところで待っておられますと熱中症の危険性というものも高まります。したがって、公共交通の利便性向上の観点からも待合環境の改善は必要不可欠であると、そのように考えてございます。

まずは現状を確認して、これを進めるようにしたいというふうに思っております。例えばここは絶対欲しいなというところがありましても、道路幅が十分でなくて規制に対応できてない部分というのもあったりもいたしますので、そういったことも一つ一つ確認しながら、できるだけ必要なところにはこうした待合環境の整備が進むように努力をしていきたい、そのように考えております。

○渡辺議長 塚田議員。

○塚田議員 ありがとうございます。この私が出させていただいた地図を見てもらうと分かるんですけど、皆さんのSide Booksにも入っているかなと思いますが、どんぐりコロコロがあって、

よねぎ一バスがあつてという、本当に点と点で地域地域でつくって
いっていますけど、これが米子市の中心部に行く路線ですね、バス
と絡んでいくというところがすごく未来の米子市じゃないかなと
思ったりはします。なので、そういったところのちょうど当たる部
分に待合ができて、そこから駅のほうに向かっていける、乗り換え
してですね、行けるとか、そういうのができるとすごくいいんじや
ないかなと思ったり、免許返納した後でもそういうところに、行き
たいところに行けるというようなものができるといいなと私は思
っておりますので、待合ですね、冬でも夏でも快適に待つことがで
きる待合の整備、エアコンが設置してあるような待合の整備をよろ
しくお願いします。

では、次にＪＲ境線について伺いたいと思います。現在の利用状
況について伺いたいと思います。

○渡辺議長　西川総合政策部長。

○西川総合政策部長　今度は鉄道でございます。境線につきまして
は、１日平均でおおむね２，０００人、おおむねでございますが２，０
００人以上の御利用があるところでございます。

ただ、コロナ禍により利用者数が大きく落ち込んでございます。
近年は定期外、いわゆる観光でありますとか生活利用、こういった
利用者の方々を中心に微増傾向というのが見られるものの、コロナ
禍前の水準には戻っていないというのが現状でございます。

一方で、少子化等の影響によりまして、利用者の半数以上を占め
ます通学定期でございますね、通学の御利用というのが減少してい
るというのが顕著な状況でございます。以上です。

○渡辺議長　塚田議員。

○塚田議員 では、現在のダイヤの利便性について伺いたいと思います。

○渡辺議長 西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 事業者の皆様方において利用状況でありますとか利用者の御意見、それから米子駅での接続状況等を総合的に勘案して、利便性にも配慮して設定されているものというふうに認識をしております。

ただ、一方で米子空港における航空便の発着時間との連携など、さらなる利便性向上のために、若干ではございますが改善する余地というのはあるものというふうに認識しておるところでございます。以上です。

○渡辺議長 塚田議員。

○塚田議員 米子市と境港市、ＪＲ西日本と３者で公共交通ネットワーク強化研究会なるものが１１月に設立されたとお聞きしましたが、ＪＲ境線を中核とした公共交通ネットワーク強化研究会の活動状況について伺いたいと思います。

○渡辺議長 西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 議員御案内のとおりでございまして、ＪＲ境線を中核とした沿線エリア全体の持続可能な公共交通ネットワークの在り方について議論することを目的といたしまして、昨年１１月に設立したものでございます。

今年度は検討材料となります基礎データ、こちらのほうを収集する調査事業として、ＪＲ境線沿線地域の現状でございますとか公共交通の現状などについて調査をすることとしております。以上です。

○渡辺議長 塚田議員。

○塚田議員 先ほどダイヤの利便性などもお聞きしましたが、利便性をさらに上げるために、私、昨年３月の定例会の一般質問で提案しました速達性や低床で道路から直接乗降でき、車椅子の方でも少しの補助で乗降できるＬＲＴの可能性もあるように思えますが、ＪＲ境線にＬＲＴを導入してはどうかと思いますが、意見をお聞きたいと思います。

○渡辺議長 西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 ＬＲＴでございますが、議員がおっしゃるとおり速達性でありますとか定時性に優れております。また、低床で道路から直接乗降できることからバリアフリー性も高く、優れた交通モードの一つというふうに認識しております。

一方で、その導入コストにつきましては、考慮すべき課題もあるというふうに認識しておるところでございます。ＪＲ境線において、長期的な視点におきましては、まちづくりの在り方でありますとか公共交通の利用環境の変化によるモード転換の大きな可能性というものもあるように考えております。議員の御提案につきましては、将来を見据えた一つのアイデアとして受け止めさせていただければというふうに存じます。以上です。

○渡辺議長 塚田議員。

○塚田議員 そうですか。導入コストは注視しなければいけません。導入コストだけではなく、今ある駅の解体もしなければいけないということもございます。

これも昨年３月に一緒に提案させてもらいました、コストを抑えて導入できるＢＲＴの可能性がありますが、ＪＲ境線、ＢＲＴの導入など、見解を伺いたいと思います。

○渡辺議長 西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 B R Tでございますが、L R Tと同様に速達性、定時性に優れることでありますとか、バスを連結することで十分な輸送能力を確保できることに加えまして、専用道を整備することから自動運転との親和性も高く、次世代の交通モードとして高いポテンシャルを有しているものというふうに認識しております。

研究会では、まずは既存の資源でございますJ R 境線、これを最大限有効活用できる方策を検討していくこととしておるところでございますが、議員御提案のB R T、それから先ほどのL R Tにつきましても幅広く検討してまいりたいというふうに考えております。以上です。

○渡辺議長 塚田議員。

○塚田議員 分かりました。先ほど述べました自動運転バス運行事業が成功しなければというのがここにもかかってくると思っています。自動運転バスがレベル5になると、B R Tも自動運転ができるということになります。今の線路を取って道路と同じ高さでアスファルトを敷き、今の線路幅でしたらB R Tは2車線擦れ違いもできると思います。駅も解体して、止まる拠点を増やすこともできます。遮断機も解体し、信号に替えることで交通の渋滞の緩和にもなります。健常者から障がい者の方、車椅子の方や子どもから高齢者といった幅広い利用者が増えることと期待してしまうものであります。未来に楽しみな米子市が待っているのではないかと思います。

ちなみに、10月に会派で茨城県の石岡市にB R Tの視察に行つてまいりますので、またお話ができたかと思います。

J R 境線に B R T を導入するとともに、停留所を増設し、停留所を拠点とした横方向の交通整備をしてはどうかと思いますが、見解を伺いたいと思います。

○渡辺議長 西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 ありがとうございます。B R T は、鉄道に比べまして加速、減速の性能に優れていると言われております。停留所の柔軟な増設も可能ではないかなというふうに考えているところでございます。

これにコミュニティバス等の横軸の交通を組み合わせることで、従来の鉄道を中心とした線の移動から地域全体を面でカバーする交通体系を構築することが可能と考えられます。こうした可能性も選択肢の一つとして、研究会においては多面的な観点から、J R 境線の中核とした公共交通ネットワークの在り方について研究を深めてまいりたいというふうに考えております。以上です。

○渡辺議長 塚田議員。

○塚田議員 ぜひ、実現になると地域の困ったの一助となりますので、検討してみてください。

次に、大要 2 点目、災害時のインフラ・衛生管理についてです。

今年の 7 月 2 8 日に発生しました熊本地震ですが、被災された地域や皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、一刻も早く平穏な生活が取り戻せますよう深く祈念申し上げます。

それで、質問に入っていきたいと思いますが、私も熊本のほうに友達がいまして、電話連絡が取れました。伺いますと、インフラの復旧の遅れや衛生環境の悪化の現状をお聞きしました。米子市も他人事ではなく、我が事で考えていかなければならないと思います。

そこでお聞きします。まず、上下水道の取組について伺いたいと思います。

○渡辺議長 下関上下水道局長。

○下関上下水道局長 災害時における水インフラの確保や衛生管理は、上下一体となって初めて機能するものでございまして、上下水道の組織統合も一体的な災害対応力の強化をその目的の一つとして行ったものでございます。

まず、上下水道の取組といたしましては、米子市上下水道耐震化計画に基づく基幹インフラの耐震化や計画的な管路更新などハード整備を進めるとともに、毎年、近隣自治体や米子管工事業協同組合さんなど10以上の関係機関と合同防災訓練を実施いたしまして、官民、広域の連携強化を図りまして、ソフト面でも災害対応力の底上げに努めているところでございます。

そのほかに、上水道では給水区域全域の基幹管路の耐震化や配水区の再編を進めましてバックアップ体制の強化を行っているほか、下水道では匠大通りの中央第二幹線や皆生処理場の耐震化に着手するなど、最重要施設を優先して対策を講じているところでございます。

また、単独では対応は困難な大規模な災害が発生した場合に備えまして、日頃から日本水道協会や日本下水道協会、日本下水道事業団などの広域的な機関から円滑に支援が受けられることができるよう、連携を図っているところでございます。

○渡辺議長 塚田議員。

○塚田議員 分かりました。合同訓練ちょっと気になりましたので、合同訓練の内容について伺いたいと思います。

○渡辺議長 下関上下水道局長。

○下関上下水道局長 合同防災訓練は令和５年度から実施しております。年々参加範囲を拡大するなど、実効性の確保に努めているところでございます。

本年度は１０月に実施する予定としておりまして、この合同防災訓練におきましては、マグニチュード７、米子市で震度６弱を観測した大規模な地震を想定いたしまして、避難所となる公共施設で上水道本管の破損に伴う断水と下水道管破損に伴う閉塞、溢水が同時に発生したとの設定で行うこととしております。

内容は主に２つのテーマを掲げて行うこととしておりまして、初動及び体制構築訓練といたしまして、発災直後の災害対策本部の設置・運営や市民の皆様からの修繕、排水不良などの電話受付体制の構築を行うとともに、ドローンを活用した現場確認や近隣３市６町の事業体による復旧計画の策定などを行うこととしております。また、現場での実践的な応急・復旧訓練といたしまして、先ほど言いました近隣３市６町の事業体と民間事業者で合同の復旧チームを編成いたしまして、不断水バルブの取付けや仮設配管の布設、給水車を用いた応急給水、さらにはマンホールトイレやテントの設置・解体など、上下一体となった実践的な復旧作業を実施することといたしております。

このような訓練を重ねることにより、官民及び広域の連携強化と実務対応能力の向上を図りまして、有事における早期復旧体制を万全なものとしてまいりたいと考えております。

○渡辺議長 塚田議員。

○塚田議員 すばらしい訓練ですね。ぜひ私たちも参加や見学をし

てみたいと思います。

続きまして、上下水道の復旧までの流れについてを伺いたいと思います。

○渡辺議長 下関上下水道局長。

○下関上下水道局長 災害時における上下水道の復旧につきましては、上下水道業務継続計画、いわゆるBCPに基づきまして、給排水の一体的な復旧を基本といたしまして段階的に対応することとしております。

まず初動といたしましては、災害対策本部の下で直ちに被害状況を集約、分析し、全体の復旧方針を決定いたします。次に、具体的な応急調査、対応におきましては、水道では病院や避難所などの重要施設への給水を最優先といたしまして、給水車や応急給水拠点をフル活用して、生活用水の確保を図ることとなります。

また、下水道では機能を早期に回復させるため、概況把握を行うゼロ次調査から目視による一次調査、カメラを用いた詳細な二次調査へと段階的に被害の全容把握に努めることとしております。

被害状況の把握後、上水道の給水と下水道の排水機能を整合させながら、重要施設から優先して復旧を進めるとともに、単独で対応が困難な大きな大規模災害の場合には、上下一体で整備した受援マニュアル、こういったものをつくっておりますので、これに基づきまして日本水道協会、あるいは日本下水道協会などの関係機関からの広域支援を受けながら、早期復旧に全力で当たることとしております。

○渡辺議長 塚田議員。

○塚田議員 やはりまずは上下水道の復旧が急務ですね。それを理

解して訓練や対応を行っている」と理解しました。今後も引き続き、米子市の上下水道をよろしく願います。

次に、災害時に停電等の被害を受けた場合、電気の復旧についてはどのように対応しているのか伺いたと思います。

○渡辺議長 高浦防災安全監。

○高浦防災安全監 本市における電力施設及び電力供給につきましては、中国電力ネットワーク株式会社が所有及び管理されておりますので、災害時における電気の復旧などの応急対応につきましても、同社において実施されるものと認識をしております。

本市におきましては、災害時には電力施設の被害状況についての情報収集でありますとか停電が発生している地域における復旧の見込み及び事故防止に関する情報提供、広報を行うこととしておりまして、同社と連携し、住民の皆様の不安の軽減と安全の確保につながるよう努めたいと考えているところでございます。

○渡辺議長 塚田議員。

○塚田議員 では、ガスについても聞きたいと思います。ガスの復旧についてはどのように対応しているのかお聞きします。

○渡辺議長 高浦防災安全監。

○高浦防災安全監 本市内におけるガス供給に関する施設につきましては、米子ガス株式会社及び一般社団法人鳥取県LPガス協会西部支部が所有、管理されておりますして、ガス供給の停止やガス漏れへの応急手当等への対応につきましても、同社、同協会において実施されるものと認識をしております。

電力と同様に、本市におきましては、災害時にはガス施設の被害情報の収集でありますとかガスの供給の停止及び再開並びに事故

防止に関する情報提供、広報を行うこととしておりまして、同社、同協会と連携しまして、住民の皆様の不安の軽減と安全の確保につながるよう努めたいと考えております。

なお、ガス漏れの事故につきましては、二次被害の発生により人命等にも危険がございますので、同社等から本市に対し応援の要請があった場合は、積極的に協力することとしているところでございます。

○渡辺議長 塚田議員。

○塚田議員 では、インフラの道路復旧について、取組について伺いたいと思います。

○渡辺議長 山中都市整備部長。

○山中都市整備部長 道路の復旧につきましては、災害発生時にまず速やかに情報収集と現地の状況把握を行っております。その上で、陥没や冠水などによる通行が危険な箇所を確認した場合には通行止めなどの必要な措置を講じるとともに、警察などの関係機関とも情報を共有いたしまして、二次災害の防止に努めております。

通行止めを実施した箇所につきましては、現地の状況に応じて応急工事を行い、できる限り早期に交通開放をできるよう努めております。以上です。

○渡辺議長 塚田議員。

○塚田議員 では、次の電波インフラについてお聞きします。スマートフォンや携帯電話が停波し、使用不能になった場合、電波インフラの復旧についてはどのように対応しているのか伺います。

○渡辺議長 高浦防災安全監。

○高浦防災安全監 携帯電話等の通信設備につきましては、携帯電

話事業者が管理をされておりますので、災害時には同事業者におきまして応急・復旧工事でありますとか移動基地局の配備等により、通信を確保されるものと認識をしております。

本市におきましては、災害時には通信設備等の被害情報の収集を行いますとともに、被害状況や復旧の見込み等につきまして、同事業者と連携し、情報提供、広報を行うこととしております。

○渡辺議長 塚田議員。

○塚田議員 専門会社が主になって復旧作業を早急に着手し、行政は情報収集に努め、地域に周知するなどのバックアップすることが急務になります。道路は、警察や消防、自衛隊と連携を図りながら復旧に努めることがよく分かりました。

次は、指定避難所の衛生管理状況についてお聞きします。避難所での衛生状況が課題になると思われませんが、断水時においてシャワーやトイレなど、どのような対応を行うのか伺いたいと思います。

○渡辺議長 高浦防災安全監。

○高浦防災安全監 まず、シャワー設備でございますが、鳥取県が所有しておられますシャワーカーの活用でありますとか自衛隊への支援要請などにより、確保することを想定しているところでございます。

一方で、これら設備を各避難所に常時配置し、御利用いただくということは難しいと考えておりますので、衛生環境を少しでも確保するため、備蓄しておりますタオルやウェットティッシュなどを配布しまして、身体の清潔保持に御活用いただきたいというふうに考えているところでございます。

また、断水した場合のトイレ対策につきましては、現在、備蓄物

資として簡易トイレ便座を188基、凝固剤入りの袋を4万2,900枚確保しているところでございます。さらに、市内7施設に配備しておりますマンホールトイレの活用でありますとか鳥取県が保有しておられますトイレカーの派遣の要請など、状況に応じて対応していくということを想定しているところでございます。

○渡辺議長 塚田議員。

○塚田議員 真夏の災害時の衛生管理の中でシャワーは必ず必要になるんじゃないかなと思いますが、備蓄しているタオルやウェットティッシュなどで何とかなるかもしれませんね。ですが、最もデリケートなものはトイレだと思います。トイレの確保が重要だと思いますが、イベント時等でも啓発も可能なトイレカーを市で購入する考えはないか伺いたいと思います。

○渡辺議長 高浦防災安全監。

○高浦防災安全監 トイレカーにつきましては、現在鳥取県が3台を所有しておられまして、災害発生時にはこれらを活用することが想定されるところでございます。

トイレカーは、災害時におきまして迅速に衛生的な水洗トイレ環境を提供することができますので、大変有用なものであるという認識はしておりますが、車両の購入費に加えまして維持管理に係る経費、また平常時の保管場所の確保など課題があるとも考えておりまして、現時点では本市で導入するということは考えていないという状況でございます。

○渡辺議長 塚田議員。

○塚田議員 市でトイレカーを購入する考えはないということですが、トイレカーは災害時の対応だけではなく、イベント等でも活

用ができ、米子市のアピールにもなるものであり、先ほどのがいな祭のところで話はしませんでした。文化ホールもイオンも女性トイレは渋滞していました。こういうデリケートなところは、やはり女性目線で考えていかないといけないと思います。

私の経験ですが、子どもが小さいときは女の子でも男性トイレに連れていけましたが、少し大きくなりますと子どものほうが嫌がって、男性トイレへ行かなくなりました。仮設トイレも狭くて、私みたいな大きなお父さんと一緒に入るのはすごく狭くて、私が外に出ないといけないぐらいの感じでございます。そういうことも踏まえて、トイレカー、トイレトレーラーなどもございますので、イベントや災害時に迅速に衛生的な水洗トイレ環境を整えるよう、担当部局だけでなく市全体で購入する考えはないか、再度お伺いしたいと思います。

○**渡辺議長** 長谷川総務部長。

○**長谷川総務部長** 重ねてのお尋ねでございますので、私から答弁させていただきます。

トイレカーですけれども、災害時におきまして衛生的な水洗トイレを迅速に配備できるということで、非常に有用なものだと認識しておりますし、加えて、議員御提案のとおり各種イベント時における活用ということもございますので、多目的に活用できるということで、そういった意味でも非常に有用なものだと認識しております。

しかしながら、米子市レベルの都市で購入いたしますと、先ほど防災安全監から答弁ございましたとおり、維持管理経費のことですとか、あと保管場所の確保、こういったことで非常に大きなハード

ルがございます。災害時におきましては、先ほど申し上げました県のトイレカーの活用のほか、災害協定を活用した仮設トイレの利用ですとか、そういうことを想定しておりますので、現時点では市が購入するということは考えていないところでございます。

○渡辺議長 塚田議員。

○塚田議員 分かりました。でも、いろいろ使えることがあるので、もう少し今後の検討としてみてください。

次に、市における衛生用品の備蓄の状況について伺いたいと思います。

○渡辺議長 高浦防災安全監。

○高浦防災安全監 本市では、避難所における生活衛生環境を確保するために、紙おむつや女性用の生理用品、感染症予防のためのマスク、アルコール消毒スプレー及びパーティションなどを備蓄しているところでございます。

また、災害時には断水によりまして避難所の衛生環境が悪化するということも懸念されますので、手洗いや除菌に使用するウェットティッシュ、保存水などにつきましても備蓄を進めているところでございます。

○渡辺議長 塚田議員。

○塚田議員 幅広く備蓄しているということで、あとは備蓄が何日もって何世帯分なのか、何人に配布できるのかという、量が調っているのかというところが課題となってくると思います。この辺は年次的にそろえていくとお聞きしているので、しっかり調べていただきたいと思います。

次に、避難所において高齢者や障がい者、持病のある方などの要

配慮者が避難されることも想定されますが、その場合の対応について伺いたいと思います。

○渡辺議長 高浦防災安全監。

○高浦防災安全監 避難所受入れの際に、高齢者等の配慮が必要な方でありまして体調を崩していらっしゃる方がおられます場合には、必要に応じまして部屋の使い分けやパーティションの活用等を想定しているところでございます。

また、鳥取県及び県内市町村との協定に基づきまして、保健所等の協力を得ながら避難所への必要なケアを行いますとともに、状況に応じまして医療機関や他の適切な施設への移送を行うことなども想定しているところでございます。

○渡辺議長 塚田議員。

○塚田議員 ここは医療と福祉と行政が連携を図り平時から取り組んでいかないと、有事の際の初動の遅れにつながると思いますので、連携強化をよろしくお願いいたします。

次に、大規模災害時は避難所の開設時間の長期化が想定されます。避難所を運営する要員の確保などが必要になってくると思われますが、市役所の職員のサポート体制について伺いたいと思います。

○渡辺議長 高浦防災安全監。

○高浦防災安全監 大規模災害が発生した場合、多岐にわたる災害対応業務の発生が見込まれますので、本市職員のみでの対応では避難所運営要員の確保に影響が生じるということが想定されます。

また、災害対応が長期化した場合、職員の負担や健康面にも十分配慮する必要があると思いますので、国や鳥取県、他の自治体等の協力をいただきながら、職員を適切に交代させるなど、継続的に避難所

の運営ができるよう体制を確保していくものと考えているところ
でございます。

なお、避難所開設が長期化した場合、避難所の運営につきまして
は、地域住民の協力を得ながら行うことなども想定しているところ
でございます。

○渡辺議長 塚田議員。

○塚田議員 市役所職員のサポート体制についてお聞きしました。

最後に、本市全体的な話としてお聞きします。大規模災害時など、
災害対応が長期化した場合、市の体制について伺いたいと思います。

○渡辺議長 伊木市長。

○伊木市長 大規模災害が発生した場合におきましては、まずは災
害対策本部を中心といたしまして全庁的な体制を構築いたします。
その上で、市民の生命、財産、身体を守るための災害応急対策、こ
れを最優先に実施することとしております。

長期化した際には、やはり対応する職員の健康面でのケアも必要
となってまいりますので、順次休息を取らせるなど対応しまして、
継続的な災害対応ができるよう体制を確保してまいります。

また、通常業務につきましては、そうした体制の中でできる限りの
対応をとということになるわけでございますけども、特に生活の維
持に不可欠な業務、これを優先いたしまして、必要に応じて縮小、
休止も交ぜるなど、限られた職員で対応できることをやらせていた
だきたいというふうに思っております。

また、大規模災害の場合ですけども、これは短期で終わらないと
いうことを想定いたしますと、やはり避難所運営や被災者の支援、
あるいはインフラの復旧、あるいは災害廃棄物の処理など、長期に

わたる対応が必要になるというふうに想定されますので、これらにつきましては、本市のみならず、国や県との連携、あるいは被災していない他の自治体との連携なども含めて、皆様の協力をいただきながら対応していくことに努めてまいりたいと存じます。以上です。

○渡辺議長 塚田議員。

○塚田議員 分かりました。今以上に市民が安心して暮らせる米子市を市長や当局の皆さんと一緒に頑張って目指していきたいと思えます。

質問は以上で終わりますが、防災・減災強化した米子市、明るい未来の米子市の話ができました。簡単には人口減少は止まらないでしょう。それでも、あらがっていきましょう。そのために、挑戦することが大事だと思います。それだけではなく、し続けることが大切だと思います。一緒に頑張りましょう。ありがとうございました。